

2023年4月28日

「サイエンスデザインアドバンスコース」報告書

報告者：理学研究科 理学専攻 博士後期課程2年 田中良來

【企画者】

- ・田中良來（理学研究科（化学） 博士後期課程1年）
- ・稲葉大晃（理学研究科（化学） 博士後期課程1年）
- ・八神祐一郎（理学研究科（生命） 博士前期課程1年）
- ・野溝はるな（理学研究科（生命） 博士前期課程1年）
- ・中野慧悟（創薬科学研究科 博士前期課程1年）

【企画の概要】

本企画では GTR 次世代講義サイエンスデザイン講習会をもち、それを発展させた内容として 3DCG を用いた動画作成を体験する。動画作成のプロセスと必要なソフトウェアの使い方を学び、各自で研究内容を元にした動画を作成し、その講評会までを行った。

【開催の背景と目的】

研究者にとって研究内容を他者に伝える機会は、同じ研究者を対象とした学術論文や学会発表に限らず、非専門家を対象としたプレスリリースや研究室 HP など多岐にわたる。そのため、聴衆に合わせて適切に研究内容を伝える技術の習得が求められる。近年では、情報を伝える手法として文章・画像だけでなく「動画」も一般的に利用されるようになった一方で、学術発表の場において動画を自身の手で作成するのは文章・画像に比べハードルが高い。本企画では 3DCG を用いた動画作成を体験することで、動画作成のプロセスと研究内容を動画という形で魅力的に伝える方法を学ぶ。

【開催内容】

サイエンスデザイン講習会でも講師を担当される高橋一誠先生に講師をお願いし、90分×3回分の講義（対面でのワークショップ形式）を行った。講義資料は事前配布し、各自予習とともに動画の構成を練ってもらった。

GTR
Nagoya University

2022 GTR 院生企画セミナー

サイエンスデザイン
アドバンスコース

2/22 (水) 13:00-16:30
3/8 (水) 13:00-14:30

3DCG を用いた動画作成
ITM 1 階 レクチャールーム オンサイト
連絡先: gtr.design2022@gmail.com

講師
高橋 一誠 先生
名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所
リサーチプロモーションディビジョン
特任助教・サイエンスデザイナー

企画
田中良来 理 D1
稲葉大晃 理 D1
八神祐一郎 理 M1
野溝はるな 理 M1
中野慧悟 創業 M1

参加登録は
こちらから
(1/31㊗)

ポスター

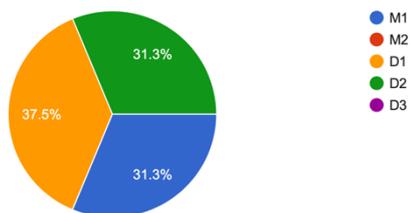
第 1、2 回：3DCG モデリングを用いた動画作成の基本技術の習得 (2023 年 2 月 22 日)
Autodesk Maya、Adobe Premiere などを使用し、動画作成の基本を学んだ。
サイエンスデザイン講習会よりも高度な内容を取り扱うため、企画メンバーは事前に講演者との打ち合わせやソフトウェア操作方法の習得を行い、講義の進行のサポートを行った。

第 3 回：自身の研究内容に合わせて作成した作品の発表と講評 (2023 年 3 月 8 日)
一人一人が二週間の制作期間中に作成した動画作品の発表を行った。高橋先生や参加者との意見交換を通じて、制作時に苦労した点や工夫した点などを共有した。

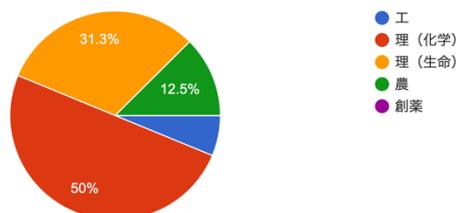
参加人数：企画メンバーを含めて 10~20 名程度

参加登録のアンケートより、学年は M2 以外が幅広く参加しており、専攻は化学系がやや多いという結果だった。

学年
16件の回答



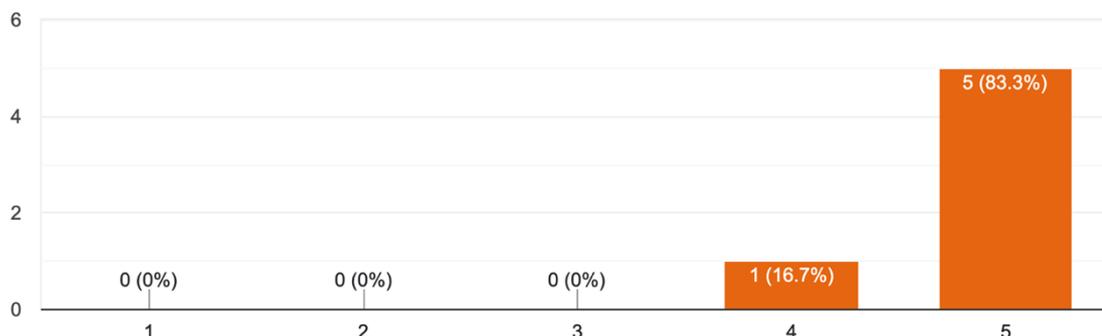
所属
16件の回答



【成果】

参加後のアンケート結果より、参加者の満足度は非常に高いことがわかった。コメント欄にも、「大変楽しく刺激的な講座だった」、「新しいスキルが身につき、非常に有意義でした」、「企画の人たちが作業中に見回りながら助けてくれたのがよかった」等の前向きなコメントが多く寄せられた。実際に完成度に高い作品が多く、名大祭で展示する計画も行われている。

満足度
6件の回答



また、本企画の最大の成果は、参加者一人一人が3DCGを用いた動画作成のノウハウ（作成のプロセス、必要なソフトウェアの知識等）を手に入れることができた点だと言える。この技能は今後研究発表をしていく中で役立つものだと考えられる。さらに、企画の準備や開催を行なっていく中で、企画者メンバー同士の交流や、高橋先生との交流を深めることができ、新たなコネクションが形成できたのも本企画の成果であると思われる。

【反省点】

今回企画を開催する上で、いくつか反省点も見られた。まず、内容量に対して講義時間が足りず、必要な内容を全て網羅することができなかつたため、2コマ分から3コマ分になど時間を増やす点。もう一つは、内容が高度であるにもかかわらず参加者へのサポートが足りず、講義についていけなくなってしまう人がいたと考えられるため、企画陣も含めてもう少し作業のサポートにまわる人数を増やすこと、サポート側はある程度ソフトに習熟しておき、スムーズに助けられるようにする点。次回開催するとしたらこの辺りを改善すると良いように感じた。